

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名:湘南医療大学

所 属:保健医療学部 看護学科

名 前:清水奈緒美

作成日:2024年9月30日

1. 教育の責任

看護学科は、将来看護師として活動するための基礎を養う課程である。そのため、看護学科の教員は看護活動の基盤となる知識・技術・態度を身に着けることができるよう教育していく責任がある。ディプロマポリシーを十分に達成した学生を育てられるよう、教育計画を立案し、実施し、併せて学生支援を展開していく必要がある。

資料作成者である清水奈緒美は、保健医療学部看護学科 臨床看護領域の准教授として、担当科目の単元または科目について、科目の目的・目標の達成のために授業・実習を設計し、評価方法を設定する役割がある。2024年度の担当科目は以下のとおりである。

また、本学での授業の他に以下のような活動を行い、教育活動に活かし、教育を行っている。

担当科目：

科目	必修・選択	時期	履修年次
看護倫理	必修	2024年度前期	3年次
成人看護方法論Ⅰ	必修	2024年度後期	2年次
成人看護方法論Ⅱ	必修	2024年度前期	3年次
リハビリテーション看護論	必修	2024年度前期	3年次
実践看護論Ⅰ(がん看護)	選択	2024年度前期	4年次
看護応用ゼミ	必修	2024年度前・後期	4年次
慢性期看護実習	必修	2024年度後期	3年次
統合実習	必修	2024年度前期	4年次

担当会議：

- 1) 学科内会議(国家試験対策委員会、実習委員会、就職支援プロジェクトチーム会議)
- 2) 日本癌治療学会認定がん診療ネットワークナビゲーター専門委員会
- 3) 日本老年腫瘍研究会世話人
- 4) 看護職のための神奈川緩和ケア研究会世話人

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

本学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」であり、目的は「教育基本法及び学校教育法と本学の理念に基づき、高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じ、地域社会に貢献していくこと」である。また、ディプロマポリシーは、【人間の命と個を尊重できる力】【エビデンスに基づく実践力】【援助的コミュニケーション力】【チームで連携し協働する力】【安全を保障する力】【看護の発展に対応する力】である。

私が主に担当している成人看護学領域の授業科目は、疾病・治療等の健康障害を持つ患者の看護を学ぶ科目が多く、【人間の命と個を尊重できる力】【エビデンスに基づく実践力】

【援助的コミュニケーション力】【チームで連携し協働する力】【安全を保障する力】のディプロマポリシーと深く結びついている。看護師としての思考過程、倫理観、豊かな人間力を身に着けることが必要であり、それらの基盤として自己を教育する力、自律的に考え行動する力が求められると考えている。自己を教育する力とは、自らが主体的に学ぶために、自分自身で学習の目標や動機づけを設定すること、自分に最もふさわしい学習方法を考え出すこと、自分の学習活動についてモニターしそれを統制することだと捉えている。そのために、学生が興味関心を持ち、学ぶことが楽しいと感じられるような教育をしていきたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私の大学教員としての経験は 2022 年度が初年度にあたり、それまで病院を活動の場としてきた。理念をもつに至った背景は、病院における経験であり、すなわち看護師として、管理職として様々な看護スタッフと出会い、看護師としての成長を支援してきた経験による。

看護師は医療の進歩に対応するために学び続けていく必要があり、また看護師として成熟していくために経験から学び続ける必要がある。そのためには、看護基礎教育の段階から自己を教育する力を身に着けていく必要がある。自律的に考え行動する力はすべての学びを支え、倫理的な行動をとることを支え、協働することを支えると感じてきたところである。

3. 教育の方法・戦略

自己研鑽および教育の方法として次のことに取り組んでいる。

- 1) 本学科におけるこれまでの教育内容や方法を知り、その成果や課題を知ること
- 2) 担当科目の教授方略や教材を探求すること
- 3) 複数の教員と協働する科目については、他の教員と目標や方法を共有すること
- 4) 担当授業については、教授内容に必要な内容が盛り込まれていること
- 5) 可能な限り具体的な例を示して授業を展開すること

4. 学習成果

2023 年度の学生は授業評価を 5 件法で行った。担当科目の評価結果の概要は以下のとおりであった。()内は平均の数値である。

1) 実践看護論 I (がん看護)

多くの評価項目において、学生から高い評価を受けた。中でも「意欲的に受講したか」(4.81)、「教員に熱意は感じられたか」(4.75)、「考え方、能力、知識、技術などが向上したか」(4.63)が高評価であった。

2) 成人看護学方法論 III

多くの評価項目において、学生から高い評価を受けた。中でも「教員に熱意は感じられたか」(4.83)、「教員はコミュニケーションをとる工夫をしていたか」(4.67)、「板書・配布物、提示資料は見やすかったか」(4.67)、「教員は勉学環境に配慮していたか」

(4.67)、「課題を発見し探求する力がついたか」(4.33)、「総合的に判断し良い授業だったか」(4.50)は、学科の平均を上回った。

3) 成人看護学実習 I

「実習課題や記録物の量は適切であった」(4.15)については全体平均に比べ評価が低く、展開に工夫が必要であることが示唆された。

4) 成人看護学実習 II

「実習課題や記録物の量は適切であった」(4.16)については全体平均に比べ評価が低く、展開に工夫が必要であることが示唆された。

5. 改善のための努力

1) 講義について

- ① 配布資料を精選する。
- ② 動画等の教材を十分に活用し、学生の興味関心を高め、理解を促進する授業を計画する。
- ③ 事例を活用して実践をイメージできる授業を計画する。

2) 実習について

- ① 自分自身が実習内容についてよく理解し、教員間で実習指導について検討する機会を持つ。
打合せの機会をもち、実習施設の状況を共有し、記録様式の活用や指導方法について検討する。
- ② 実習の記録様式を検討する。
学習効果を高める記録様式をめざし、実習記録様式を検討する機会をもつ。

6. 今後の目標

長期目標:

学生の学びを支えるには、教員の側もより深い専門的な知識を得ること、学際的な学びを継続する必要があると感じており、学びを継続し、より豊かな指導ができることを目標にしていきたい。

短期目標:

新カリキュラムの運営では、2年次に臨床判断モデルを基盤として、学生は看護過程を学んでいる。2024年度においても3年次生の授業では、この思考過程を学生とともに歩む授業設計を検討し、実施していきたい。